

2025 年度 学校評価（自己評価・学校関係者評価）報告書

学校法人 愛真幼稚園

1. 本園の教育目標

幼子が神から与えられた豊かな自然の中での保育や、「あそびの保育」による子どもの主体的な活動を通して、豊かな感性、観察力、創造性、社会性を身に付け、成長していく手助けをする

2. 本年度の重点目標

- ・自然体験を通して楽しさを感じ一人ひとりの心とからだを豊かにする
- ・あそびの中で気持ちを解放させて心ゆくまで遊ぶ

3. 自己評価の評価項目の達成状況および取組み状況と結果

評価 A: 達成している B: 一部達成している C: 一部改善を要する D: 改善を要する

評価項目	評価	取組み状況・結果
山や川など野外活動の中で自然に親しみ、健康な心と体を成長させる	B	園外保育の実施にあたって担任等の教職員が必ず下見を行い、注意が必要な場所については写真や動画で情報共有するとともに、対策を含めて保護者に事前に周知した。園児が園外保育を楽しみながら自然に対する興味を高め、逞しい心と体が成長した。より自然を愛し、大切にしようと思う心が育つよう職員研修や情報共有によって子どもの興味関心の深まりや広がりが増すよう努めていきたい。
園児一人一人の自発的な遊びの中で、生きる力や社会性を身に付ける保育を展開する	B	園児一人一人の運動能力や体力を見極めて遊びを見守り、園児が友達と協調して行動できる環境を作った。園児が自分の気持ちを素直に表しつつ友達と遊びを共有し、一人一人が自分で考えて行動する姿が増えた。子ども達が遊びの広がりや展開の楽しさを経験する中で互いの気持ちに気付き合い、一緒に生活づくりをしていけるよう、保育の環境や体制づくりの向上に励んでいきたい。
園児がのびのびと安心して遊べる環境を作る	B	園児の発達段階に応じた多様な遊具等を園庭に設置し、その破損や不具合を定期的に点検した。園児が園庭にいる時は複数かつ十分な人数の教職員が連携して見守り、細やかに意思疎通を図った。園児が園庭を思い切り走り回ったり、新たな遊びを工夫したりするようになった。安心感の中で経験値が増し、よりチャレンジしたくなるような保育の工夫に努めていきたい。
園の安全管理体制を充実させる	B	危機管理マニュアル等を継続的に見直した。ヒヤリハット事例は直ちに情報共有し、職員全員が安全管理研修を受講した。園児の体調不良等への教職員の対応がスムーズになり、安全意識も一層高まった。ヒヤリハット事例への意識低下に留意し、更に丁寧な保育や気づきの共有に心がけていく。
食の安心安全を確保するとともに、園児に食の大切さを伝える	B	食物アレルギーや食習慣、発育・発達に応じ、また個別に配慮した給食を提供し、楽しく食事ができる雰囲気づくりをした。野菜を園で育て、園児も調理に参加するなど、食文化を伝える工夫を行った。園児が給食の時間を楽しみ、献立や食べ物に興味を持つようになった。今後も楽しく食することを意識し、食べることへの意欲が高まるよう取り組んでいきたい。
家庭との連絡を密にし、園での様子を情報発信する	B	スマホアプリを用いて家庭への連絡をこまめに行い、園児の様子を写真や動画で配信した。また、園児の体調不良やケガ等があれば保護者に連絡した。園での様子を保護者の安心感が得られ、家庭とのコミュニケーションがよく図られるようになった。効果的な情報発信について研修の機会を設け、保護者とのより良い情報の共有を図っていきたい。

子育て支援への充実を図り、安心・快適な園運営を行う	B	共働きや核家族家庭も子育てのしやすい環境づくりをに努め、行事時の託児や預かり保育の充実を図った。一人ひとりの子どもの困り感に寄り添い個を支える体制を整えたり、保護者からの相談に丁寧に向き合うなど安心感や心地よさのある園づくりに努めた。より質の高い教育保育に励み、子育てに安心と快適が与えられる園づくりをしていく。
---------------------------	---	--

4. 総合的な自己評価結果

評価 A: 達成している B: 一部達成している C: 一部改善を要する D: 改善を要する

評価	理 由
B	本年度の重点目標に関連する項目を中心に、園の安全管理体制、食の安心安全と食育、家庭との連絡や子育て支援について評価を行った。保護者アンケートの結果は概ね良好であった。教職員による自己評価では達成できていない取組指標・成果指標も確認された。今年度は自然保育について多角的に研究を深め、実践の振り返りを行ったことから園全体の資質向上に努めることができた。今後もますます教職員の研修等や日頃の実践を通してさらに研鑽を積み、保育の質の向上を図る重要性を確認した。

5. 今後に取り組む園の課題

課 題	具体的な取組み方法
自然保育	自然を愛する心と逞しい体を育むために、自然についての知識や技術の習得に努め、園児の成長に合わせた園庭作りや園外保育を計画・実施していく。
特別支援教育	職員体制を整備し、教職員同士で個々のケースにあった行動分析やアセスメントをより丁寧に行う。共通理解を図りチーム保育を進めていく。
子育て支援	プレイルームや子育て講座などにより未就園児親子への支援の充実を図り、地域での子育て環境を支えていく。また、在園保護者同士も安心して共に子育てし合える場となるよう、子育てについての談話会や園庭開放等で気軽に教師や保護者同士が交われる機会を増やす。

6. 学校関係者評価委員会の評価

評価項目全てにおいて、質の高い保育ができていると評価している。保護者対応も適切にできており、子育て支援も充実している。現状に満足する事なく、課題を見つけて取り組む姿勢は、更なる成果が期待できる。引き続き愛真幼稚園の特色を活かし、誰からも愛される幼稚園を築き上げて欲しい。

特に、特別支援教育では、すべての子どもが愛されてる園として、子ども一人ひとりが自分を大切な存在であると受け止めながら互いに育てあえる教育・保育をより深めていって欲しい。

また、近年経験することの乏しくなっている自然豊かな環境下での教育・保育とともに、日本の幼児教育の中で、子どもの「主体性」についていち早く取り組んできた本園の特色である『あそびの保育』についてもより一層研究を深め、園の資質向上を図っていただきたい。

学校関係者評価委員 牛尾 健斗

学校関係者評価委員 衣川 菜美

学校関係者評価委員 戸塚 さなえ

学校関係者評価委員 砂川 晋治

学校関係者評価委員 谷川 香代

委員会実施日 2026 年 3 月 5 日

学校評価（第三者評価）報告書

2026年3月20日に学校評価（第三者評価）委員会を開催し、2025年度における愛真幼稚園の保育・教育活動に関して評価した。本評価は「幼稚園における学校評価ガイドライン」（文部科学省）に則り、自己評価や学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について専門的視点から評価を行うものである。評価の結果を以下にまとめて報告する。

■教育課程の計画と実施の状況及び保育の質の向上に向けて

本園の教育目標に掲げている「あそびの保育」及び「自然とかかわる保育」は、2025年度の重点目標に沿って計画に基づき適切に実施され、その成果があらわれている。保護者アンケートからも、園での具体的な自然体験を通じて、「我が子の感性の育ちを実感している」などとの肯定的な意見が多く寄せられており、園の教育課程の方向性が家庭からも高く評価され、強い信頼を得ていることが伺える。園児がのびのびと自然に親しみ、心身共に日々成長できる環境が多面的に整えられていると評価する。

特に2025年度は、子どもと園外保育についての研究を進め、教師間で理解を深め合うと共に、実施された県及び中国地区の幼稚園研究会における保育実践発表では、他園からの関心度も高く、園が取り組んできている「自然保育」は、現代の幼児の人間形成に与える影響として全国的にも着目されていることが伺えた。今後も研鑽を重ね、保育の質の維持向上を図っていかれることに期待する。なお、教職員による自己評価では、「山や川など野外活動の中で自然に親しみ、健康な心と体を成長させる」や「園児一人一人の自発的な遊びの中で、生きる力や社会性を身に付ける保育を展開する」という、まさに園の根幹をなす評価項目において、成果指標がやや低く表れている。この結果は、日々の教育実践が停滞していることを意味するのではなく、「園の特色である自然保育やあそびの保育を、より高いレベルで充実させたい」という教職員の願いや、さらなる質の向上に向けた高い課題意識の表れであると捉えることができる。今後も常に子どもたちの具体的な姿を中心に据え、全教職員で真摯に検討していくことが求められる。

■安心・安全な保育環境の整備について

園外保育の下見、園庭の遊具の点検、安全管理マニュアルの継続的な見直しと全職員間での共有、食物アレルギー等に対する丁寧な個別対応など、多方面にわたって安心・安全な園環境の維持に向け、細やかな対応が継続されている。そうした安心感・安全感の土台の上に、子どもたちがのびのびとやってみたいことに挑戦でき、その主体的な活動を通して、子どもたちが確実な成長に繋がっている点は高く評価できる。

■保護者との連携と子育て支援について

家庭とのつながりを密にし、共に子どもを育む環境づくりにおいて、細やかな取り組みが進められている。スマートフォンアプリ等の連絡ツールを工夫して活用し、日々の連絡にとどまらず、園児の様子を写真や動画で配信している試みは、家庭とのコミュニケーションを一層深めることに寄与している。これにより、保護者が園での我が子の育ちを可視化して捉えることができ、大きな安心感に繋がっている点は評価に値する。園と保護者の強固な信頼関係と連携こそが、子どもたちの健やかな成長を支える強固な土台となっている。

また、保護者アンケートの「園は子どものことで相談したり話を聞いたりしやすい」という設問に対し、ほとんどの保護者が肯定的な回答を寄せている事実は、園の相談体制や教職員の傾聴姿勢

が適切であり、保護者にとって心強い存在となっていると評価できる。

■教育活動の記録と活用について

研究保育におけるケース検討会では、様々な記録の在り方や活用方法によって行動把握や幼児理解を深めようとした工夫がみられた（ボイスレコーダーの活用やドキュメンテーション記録、エピソード記述等）。これは、これまでの個々であった教師の保育記録から、園の保育実践の共有が教職員間でもより具体性をもって伝わりやすいものとなり、一人ひとりの教師が全体把握の中でより視野を広げ、丁寧で豊かな保育を実践していくことができるものである。今後、保育実践の中で活かしつつ、共に幼児理解を相互に深め合える教育活動へと循環されていくことが期待される。

■ 総括

2025年度の愛真幼稚園は、日々見直しが繰り返されている安全管理体制、ICTの活用によるより細やかな保護者連携を基盤に、子どもの主体性を引き出す質の高い教育・保育を安定して提供されている。

また、現状の成果に満足することなく、自らの教育課程の根幹である「あそびの保育」「自然保育」に対して教職員自身が深い問いを投げかけ、さらなる研鑽を積もうとする姿勢は非常に自省的であり、今後のさらなる発展に強く期待するものである。

今後は、ICT活用をより総合的に保育運用の視点から捉え直し、DX化による業務の効率化を図りつつ、教職員間で園児の発達の視点や行動分析などのアセスメントの共有をさらに進め、一人ひとりが大切な存在として認められる中で互いに育ち合えるチーム保育をより具現化していくこと、またこれまでに蓄積されてきた「あそびの保育」の実践をさらに言語化・構造化することで、園の建学の精神であるキリスト教の愛の業による一人ひとりの個性が尊重され豊かな人間性が育まれる保育がなされていくことに期待する。

第三者評価委員

鳥取大学地域学部教授

寺川 志奈子

鳥取敬愛高等学校長

倭島 慶吾

氷ノ山自然ふれあい館 響きの森館長

高橋 宏

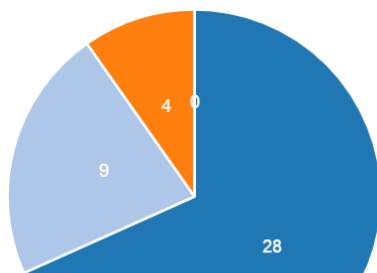
委員会実施日 2026年3月25日

2025年度保護者アンケート結果

対象人数 48人 回答人数 41人

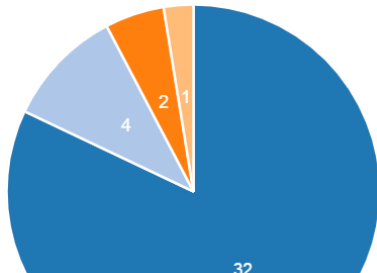
■ 当てはまる
■ やや当てはまる
■ あまり当てはまらない
■ 当てはまらない

質問 1. 子どもは外遊びを好み、いきいきと遊んでいる



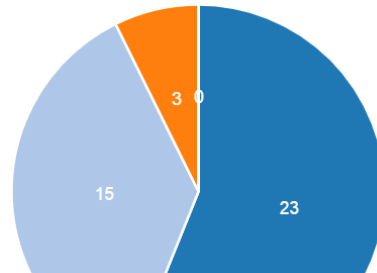
当てはまる	28 人
やや当てはまる	9 人
あまり当てはまらない	4 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 2. 子どもは自然の中での園外保育を楽しんだ



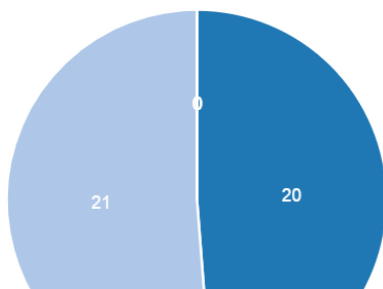
当てはまる	32 人
やや当てはまる	4 人
あまり当てはまらない	2 人
当てはまらない	3 人
無回答	0 人

質問 3. 子どもは虫や花などへの興味が広がった



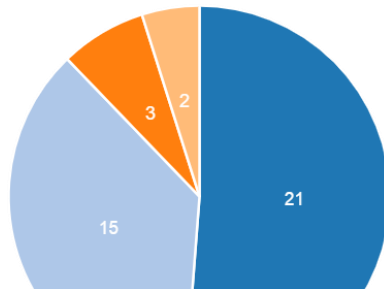
当てはまる	23 人
やや当てはまる	15 人
あまり当てはまらない	3 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 4. 子どもは花や木、生き物を大切にする姿がある



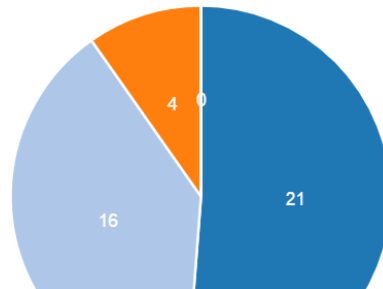
当てはまる	20 人
やや当てはまる	21 人
あまり当てはまらない	0 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 5. 子どもは友だちと一緒に運動したり、新たな遊びを工夫したりする姿がある



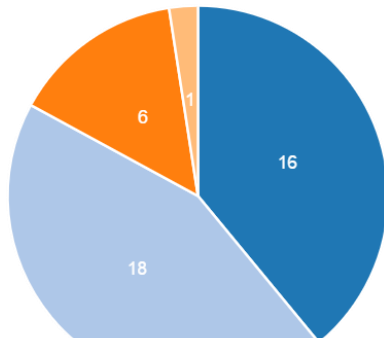
当てはまる	21 人
やや当てはまる	15 人
あまり当てはまらない	3 人
当てはまらない	2 人
無回答	0 人

質問 6. 子どもは多くの食材に触れ、食べ物への興味関心が広がった



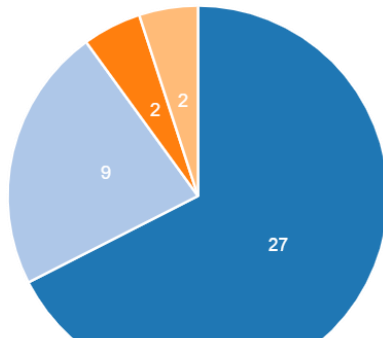
当てはまる	21 人
やや当てはまる	16 人
あまり当てはまらない	4 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 7. 子どもは命の大切さや、食べることに對する感謝の気持ちが育まれた



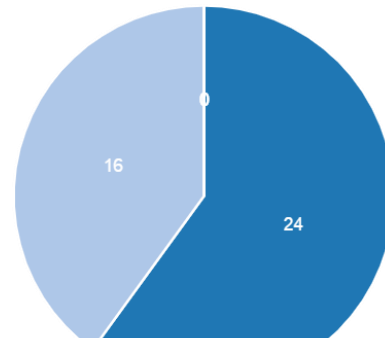
当てはまる	16 人
やや当てはまる	18 人
あまり当てはまらない	6 人
当てはまらない	1 人
無回答	0 人

質問 8. 子どもは園バスでの園外保育を楽しみにしている



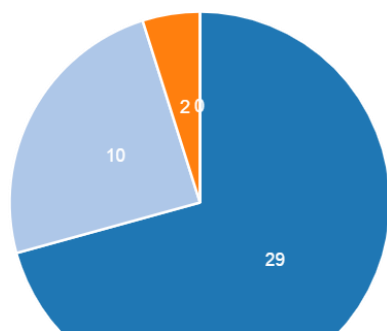
当てはまる	27 人
やや当てはまる	9 人
あまり当てはまらない	2 人
当てはまらない	2 人
無回答	0 人

質問 9. 子どもは交通ルールを守って安全に登降園している



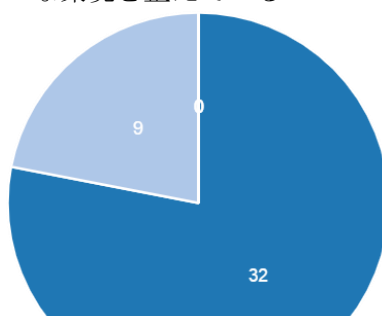
当てはまる	24 人
やや当てはまる	16 人
あまり当てはまらない	0 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 10. 子どもは園でのびのびと過ごしている



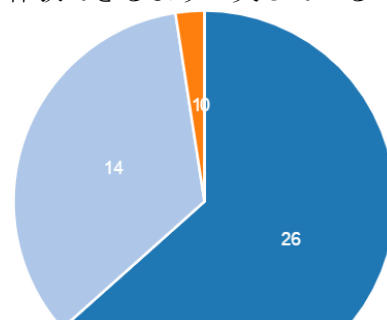
当てはまる	29 人
やや当てはまる	10 人
あまり当てはまらない	2 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 11. 園は子どもが生活を満喫できるように様々な環境を整えている



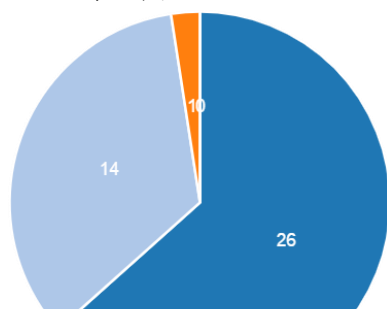
当てはまる	32 人
やや当てはまる	9 人
あまり当てはまらない	0 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 12. 園は一人ひとりの子どもの興味関心に合わせ様々な遊びが体験できるよう工夫している



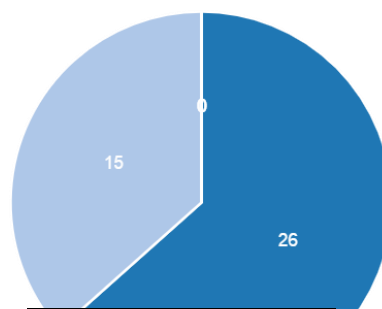
当てはまる	26 人
やや当てはまる	14 人
あまり当てはまらない	1 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 13. 園は一人ひとりの子どもの思いに寄り添い、丁寧に関わっている



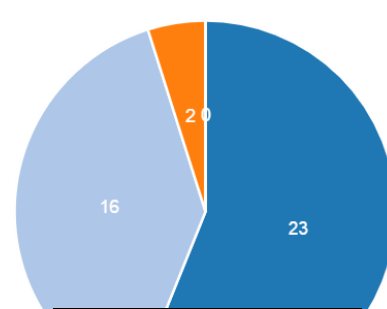
当てはまる	26 人
やや当てはまる	14 人
あまり当てはまらない	1 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 14. 園からの連絡や情報発信が迅速に行われている



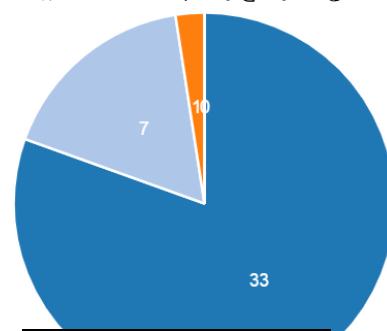
当てはまる	26 人
やや当てはまる	15 人
あまり当てはまらない	0 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 15. 園は安全に心がけ、緊急時の対応は適切である



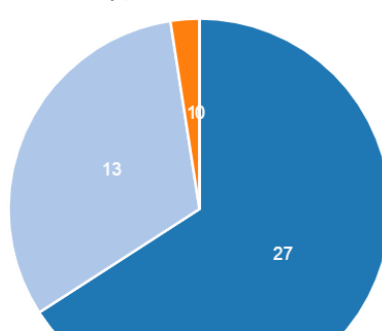
当てはまる	23 人
やや当てはまる	16 人
あまり当てはまらない	2 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 16. スマホアプリを使っての利用変更、欠席等の連絡がスムーズにできている



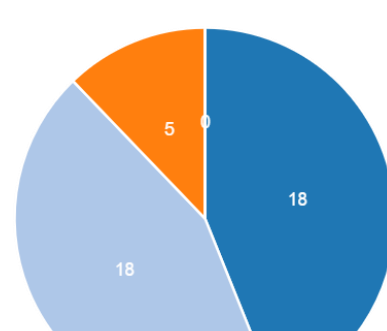
当てはまる	33 人
やや当てはまる	7 人
あまり当てはまらない	1 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 17. 園は子どものことで相談したり、話を聞いたりしやすい



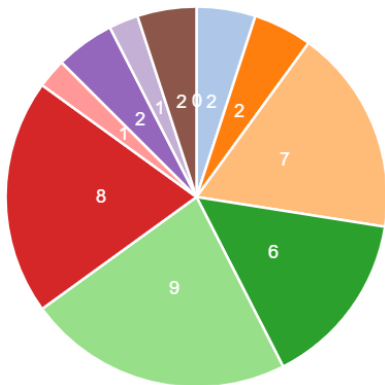
当てはまる	27 人
やや当てはまる	13 人
あまり当てはまらない	1 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 18. 園は気軽に訪ねやすく、保護者同士で交わりやすい雰囲気がある



当てはまる	18 人
やや当てはまる	18 人
あまり当てはまらない	5 人
当てはまらない	0 人
無回答	0 人

質問 19. 平日に行う保護者参加行事は、懇談会等を含めて年にどれ位の頻度がよいですか。



0日/年	0人
1日/年	2人
2日/年	2人
3日/年	7人
4日/年	6人
5日/年	9人

6日/年	8人
7日/年	1人
8日/年	2人
9日/年	1人
10日/年以上	2人
無回答	1人

質問 20. より良い園づくりのためにお気づきのことがありましたらお聞かせください

回答人数 13 人

【教育内容など】

- ・いつもアクティブに遊びに出掛けて頂いてありがたい。こんなに外へ出かける園もなかなかないだろうと思う。
- ・愛真で過ごすようになってから、成長に驚くことがとても増えた。子どもがやりたいと思った時に思いっきりやれる環境と選択肢、整った道具、バランスの良い園外での自然体験、とても良いと思っている。
- ・幼稚園に通うようになってから自然がさらに大好きになり、自然と触れ合う中でたくさんの感性が育っている。日々、親子共に成長させていただいている。先生方が子どもたちをありのままに受け止めて愛してくださってありがたい。
- ・年長になったら、45分何かを集中してやってみるなど、小学校での生活におけた取り組みが何かあってもいいと思う。
- ・毎朝登園時の言葉かけで声がかかりやすくなった。園庭開放の回数が増えた事によって、先生とお話ができる機会ができたように感じる。
- ・通園バスの乗車時間の均等化を求める。距離はさほど変わらないのに、往復2時間と10分の子がいるのはどうか。少人数の園、時に応じて柔軟に対応すべき。2便制が良いのでは。
- ・毎週火曜の弁当作りがやや負担なので、弁当日は隔週または園外保育日のみとする等の変更を検討いただけるとありがたい。
- ・担任の先生以外の方からも最近の様子などについてお声があり、しっかり情報共有されているとありがたく感じる。

【危機管理など】

・緊急時対応について、園の取り組み（例えば先生方の安全訓練や研修の実施など）を園入口などで掲示して見れるようにすると、保護者も安心でき評価しやすい。

【行事など】

・平日にお休みするのはなかなか苦勞するものの、遊ぼうデーなどの、子どもと園で過ごせる機会や、早めに一緒に帰宅して遊んだりできる機会はあるありがたい(園行事という形で機会がないとなかなかお休みを取れないため)。

・誕生日会の給食時の参加について「保護者 1 名」の方針があるが公平性の観点から改めて周知・統一の確認をお願いしたい。

・保護者が育児や教育について学べる講座があればいいと思う。

・平日の行事の時は、2 か月前ぐらいに仕事の休みを申請するため、何時から何時まで休みを取ればいいのか大体の時間がわかるとありがたい。

【その他】

・園に直接的ではないが、附随するクラス等でのグループ LINE について、トラブル防止や公平性の観点から、使用方法や使用目的、ルール等を明確にしてほしい。園に関わる内容はマチコミメールを活用してほしい。園より注意喚起してほしい。（等複数回答あり）

・役員の選出方法について固定化し負担や意見の偏りが生じないか心配の声がある。任期制や匿名承認などで、より公平で透明性の高い仕組みの検討をしてほしい。

・保護者アンケート集計結果を全保護者へ返した方がよい。
